

2025年基準

住宅性能表示 構造の安定
総合判定表

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■建物情報

屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/㎡)		外壁の仕様	サイディング(600N/㎡)	
多雪地域区分	一般地域	基準風速Vo(m/sec)	36	地震地域係数Z	1
地盤割増	割増なし				

■性能表示壁量計算

平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5の1-1(3)ホ①、1-4(3)ホ①

	階・方向	等級1		等級2		等級3		等級判定
		充足率	判定	充足率	判定	充足率	判定	
耐震等級	2階X	1.65	○	1.32	○	1.10	○	耐震等級3
	2階Y	1.85	○	1.48	○	1.23	○	
	1階X	1.58	○	1.23	○	1.02	○	
	1階Y	1.65	○	1.29	○	1.07	○	
耐風等級	2階X	2.58	○	1.69	○			耐風等級2
	2階Y	2.88	○	1.89	○			
	1階X	1.67	○	1.10	○			
	1階Y	2.18	○	1.43	○			

■床倍率

平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5の1-1(3)ホ②③、1-4(3)ホ②

▼耐力壁線間距離(最大8m) 適合 不適

▼床倍率判定

	階・方向	等級1		等級2		等級3		等級判定
		充足率	判定	充足率	判定	充足率	判定	
耐震等級	2階X			1.32	○	1.10	○	耐震等級3
	2階Y			1.37	○	1.14	○	
	1階X			1.95	○	1.62	○	
	1階Y			2.17	○	1.81	○	
耐風等級	2階X			1.58	○			耐風等級2
	2階Y			1.62	○			
	1階X			1.12	○			
	1階Y			2.72	○			

■壁の配置

平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」

▼四分割法

階 方向	位置	充足率	充足率 判定	壁率比	壁率比 判定	四分割法 判定
2階X	上	1.71	○	—	—	適合
	下	1.96	○			
2階Y	左	2.45	○	—	—	
	右	1.96	○			
1階X	上	1.77	○	—	—	
	下	1.32	○			
1階Y	左	2.81	○	—	—	
	右	2.27	○			

▼偏心率

階方向	偏心率	判定	偏心率判定
2階X	0.00	○	適合
2階Y	0.07	○	
1階X	0.09	○	
1階Y	0.04	○	

■接合部

チェック	項目	関連法令
	筋かい	平成12年建設省告示第1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」第1
	柱頭柱脚	平成12年建設省告示第1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」第2
	胴差と通し柱	平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5の1-1(3)ホ④
	外周横架材	平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5の1-1(3)ホ④

※接合部の「判定」画面の確認を行うと、「チェック欄」が「OK」となります。

■横架材のチェック

平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5の1-1(3)ホ⑤

■基礎のチェック

平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5の1-1(3)ホ⑤

■総合判定

耐震等級	等級3	耐風等級	等級2
------	-----	------	-----

【住宅性能表示】壁量計算

建物名 住木邸新築工事

壁量判定表

存在壁量明細表

準耐力壁等計算表

部屋別壁仕様

壁量計算平面図

見付面積根拠図

見付面積計算表

床面積根拠図

床面積計算表

■注意事項

・平成13年国土交通省告示第1347号「評価方法基準」第5による、準耐力壁等を含めた壁量の検討を行います。

2025年基準

壁量判定表
(準耐力壁等を考慮)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

【物件情報】

屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/㎡)
外壁の仕様	サイディング(600N/㎡)

1階建築基準法床面積 A1	69.23 ㎡	地盤割増 B1	割増無し
2階建築基準法床面積 A2	53.00 ㎡	建築基準法必要壁量割増 B2	1.00
1階性能表示床面積 S1	70.56 ㎡	地震係数 Z	1
2階性能表示床面積 S2	53.00 ㎡	風力区分 V _o	36
1階 階高	2,900 mm	風力係数	0.76
2階 階高	2,800 mm	多雪地域区分	一般
		1階横架材間寸法	2,844 mm
		2階横架材間寸法	2,730 mm

【存在壁量】

階・方向	耐力壁(m) A	準耐力壁等(m) B	存在壁量(m) C=A+B
1階X方向	40.9500	1.8427	42.79
1階Y方向	40.0400	4.7092	44.74
2階X方向	20.9300	3.6354	24.56
2階Y方向	23.6600	3.8493	27.50

【地震に関する必要壁量と判定】

階・方向	建築基準法				等級2				等級3			
	必要壁量(m)		充足率 C/D	判定	必要壁量(m)		充足率 C/E	判定	必要壁量(m)		充足率 C/F	判定
	計算式	D			計算式	E			計算式	F		
1階X方向	0.39xB2xA1	27.00	1.58	○	0.49xS1	34.58	1.23	○	0.59xS1	41.64	1.02	○
1階Y方向		27.00	1.65	○		34.58	1.29	○		41.64	1.07	○
2階X方向	0.28xB2xA2	14.84	1.65	○	0.35xS2	18.55	1.32	○	0.42xS2	22.26	1.10	○
2階Y方向		14.84	1.85	○		18.55	1.48	○		22.26	1.23	○

【風に関する必要壁量と判定】

階・方向	見付面積 (㎡) I	建築基準法				等級2			
		係数 J	必要壁量(m) K=I×J	充足率 C/K	判定	係数 L	必要壁量(m) M=I×L	充足率 C/M	判定
1階X方向	51.05	0.50	25.53	1.67	○	0.76	38.80	1.10	○
1階Y方向	41.02		20.51	2.18	○		31.18	1.43	○
2階X方向	19.04		9.52	2.58	○		14.48	1.69	○
2階Y方向	19.04		9.52	2.88	○		14.48	1.89	○

【性能表示 壁量計算判定】

耐震等級	地震に関して、等級3を満足しています。	判定
		等級3 ★★★
耐風等級	風に関して、等級2を満足しています。	判定
		等級2 ★★

＜判定基準＞

	等級3 ★★★	等級2 ★★	等級1 ★	不適
耐震等級	等級1の1.5倍	等級1の1.25倍	倒壊・崩壊 数百年に一度発生する地震に対して倒壊・崩壊しない程度	等級1を 満たさない
			損傷 数十年に一度発生する地震に対して損傷しない程度	
耐風等級		等級1の1.2倍	倒壊・崩壊 500年に一度発生する暴風に対して倒壊・崩壊しない程度	等級1を 満たさない
			損傷 50年に一度発生する暴風に対して損傷しない程度	

1. 階の床面積に乗ずる数値(単位 cm/m^2)(令第46条第4項)

項目	設定値
2階階高(m)	2.800
1階階高(m)	2.900
建物最高高さ-軒高さ(m)	1.710
標準せん断力係数C0	0.2
2階床面積(m^2)	53.00
1階床面積(m^2)	69.23
軒の出(m)	0.75
屋根勾配(寸)	4.00
屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/ m^2)
外壁の仕様	サイディング(600N/ m^2)
太陽光発電設備等(N/ m^2)	なし
屋根または天井断熱材(N/ m^2)	100(固定値)
外壁断熱材(N/ m^2)	70(固定値)
建物用途(積載荷重N/ m^2)	住宅(600)
地震地域係数Z	1.0
多雪地域区分	一般
垂直積雪深(cm)	30
積雪単位荷重(N/ cm/m^2)	20.00

地震地域係数と多雪地域区分は耐震等級2および耐震等級3の必要壁量係数に反映されます。

	階	壁の床面積に乗ずる数値(cm/m^2)
建築基準法	2階	28
	2階建ての1階	39
	下屋	22
性能表示 耐震等級2	2階	35
	2階建ての1階	49
性能表示 耐震等級3	2階	42
	2階建ての1階	59

2025年基準

使用耐力壁一覧

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

材種名	最低 厚さ (mm)	対象告示または 大臣認定番号	規格	釘打ちの方法		倍率
				種類	間隔 (mm)	
石膏ボード(床勝ち大壁)	12	昭56建告第1100号第1 第五号	JIS A6901- 2005	GNF40又 はGNC40	150以下	0.90
筋かい(45×90)(シングル)	—	令第46条表1(4)(6)	—	—	—	2.00
筋かい(45×90)(ダブル)	—	令第46条表1(4)(6)	—	—	—	4.00

2025年基準

存在壁量明細表
(1階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
4	5	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	136.50	273.00	
8	9	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
18	19	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
19	20	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	136.50	546.00	
23	24	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
30	31	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
31	32	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	136.50	546.00	
40	41	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
42	43	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
43	44	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
55	56	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
57	58	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
58	59	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
60	61	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
					存在壁量合計		4,095.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

存在壁量明細表
(1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
18	25	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
25	30	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
37	42	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
42	46	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
46	49	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
49	52	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
52	55	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
21	28	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
45	47	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
53	58	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
5	13	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	182.00	728.00	
36	41	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
48	51	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
51	54	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
54	61	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
					存在壁量合計		4,004.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

存在壁量明細表
(2階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
1	2	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
2	3	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	136.50	273.00	
5	6	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
17	18	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
19	20	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
21	22	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
22	23	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
33	34	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
35	36	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
36	37	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
38	39	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
					存在壁量合計		2,093.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

存在壁量明細表
(2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
1	9	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	182.00	364.00	
13	21	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
21	27	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
30	33	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
4	12	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	182.00	728.00	
7	8	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
20	26	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
26	29	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
32	39	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
					存在壁量合計		2,366.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(1階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)	下地 貼材 高さ (cm)	垂壁 高さ (cm)	腰壁 高さ (cm)	下地 貼材 実高さ (cm)	横架材 間内法 寸法 (cm)	有効 壁倍率	壁長 (cm)	存在 壁量 (cm)	
4	5	浴室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	136.5	61.42	
8	9	玄関	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
58	59	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
60	61	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
																合計	184.27

$$F = E - D \text{ (注)} \quad G = D - C \text{ (注)} \quad H = F + G \quad J = A \times B \times H \div I \quad L = J \times K$$

(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のときのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。

備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示

の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減

「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C		E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)									
37	42	納戸	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
7	14	ホール	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	136.5	61.42	
2	9	トイレ	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
5	13	浴室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	182.0	81.90	
17	24	洗面室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
24	29	キッチン	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
36	41	キッチン	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
48	51	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
51	54	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
54	61	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
																合計	470.92

$F = E - D$ (注) $G = D - C$ (注) $H = F + G$ $J = A \times B \times H \div I$ $L = J \times K$
(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のおきのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。

備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示

の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減

「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(2階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04
建物コード: 000000
建物名: 住木邸新築工事

				A	B		C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	備考
柱 1	柱 2	部位名	材種名	基準 倍率	木 ずれ 係数	開口 種類	開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)	下地 貼材 高さ (cm)	垂壁 高さ (cm)	腰壁 高さ (cm)	下地 貼材 実高さ (cm)	横架材 間内法 寸法 (cm)	有効 壁倍率	壁長 (cm)	存在 壁量 (cm)	
1	2	階段	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
2	3	階段	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	136.5	64.15	
4	5	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
5	6	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
33	34	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
35	36	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
36	37	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
38	39	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
																合計	363.54

$F = E - D$ (注) $G = D - C$ (注) $H = F + G$ $J = A \times B \times H \div I$ $L = J \times K$
(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のときのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。
備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示
の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減
「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:04
建物コード: 000000
建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C		E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)									
1	9	階段	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	182.0	85.54	
13	21	トイレ	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
21	27	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
30	33	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
7	8	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
20	26	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
26	29	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
32	39	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
																合計	384.93

$F = E - D$ (注) $G = D - C$ (注) $H = F + G$ $J = A \times B \times H \div I$ $L = J \times K$
(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のときのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。
備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示
の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減
「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

部屋別壁仕様

日付:2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

2025年基準

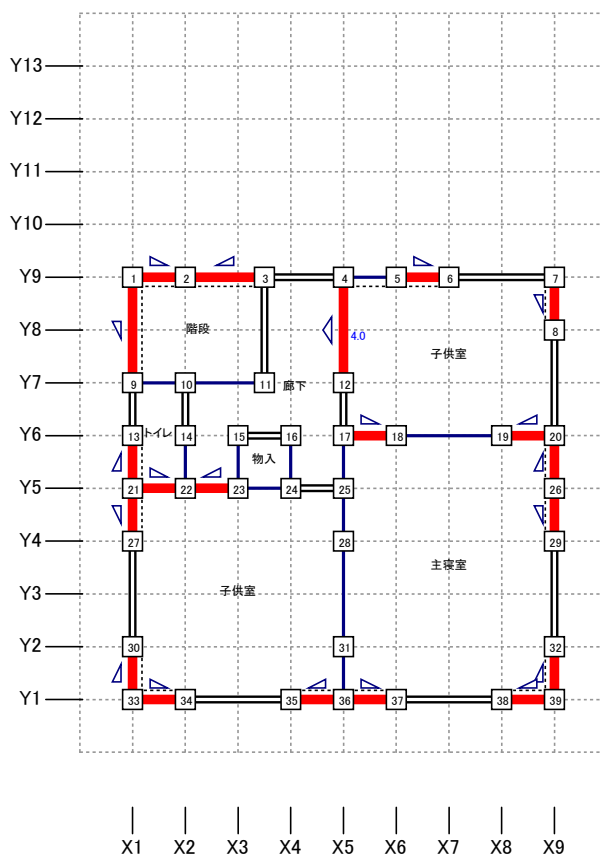
壁量計算平面図

日付: 2024年10月17日 15:29:04

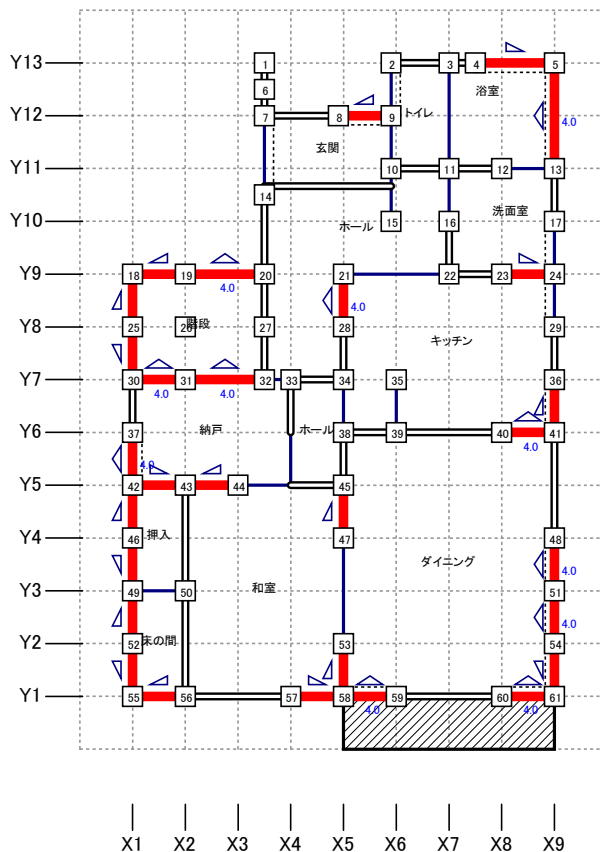
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

2階



1階



縮尺 1/130 ※準耐力壁: 考慮する 垂壁・腰壁: 考慮する

凡例

— 一般壁	開口部	柱頭	柱脚	 準耐力壁
■ 面材耐力壁	筋かいダブル	筋かいシングル		
▨ バルコニー	小屋裏収納等	柱		壁倍率 2.0 (表記の無い壁の壁倍率は 2.0)

2025年基準

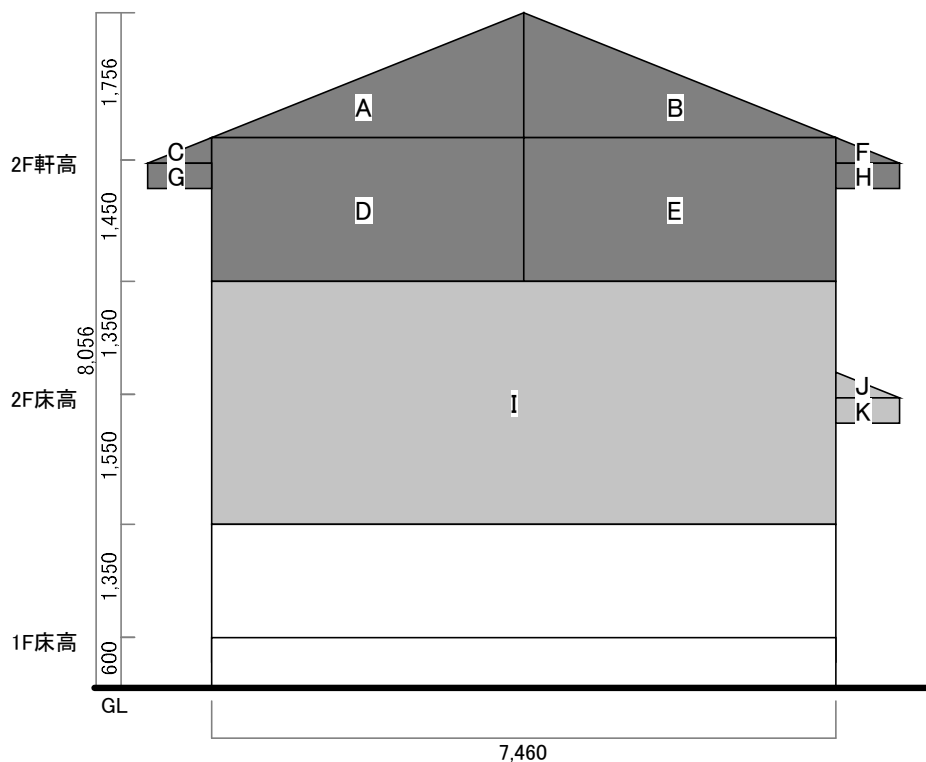
見付面積根拠図

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

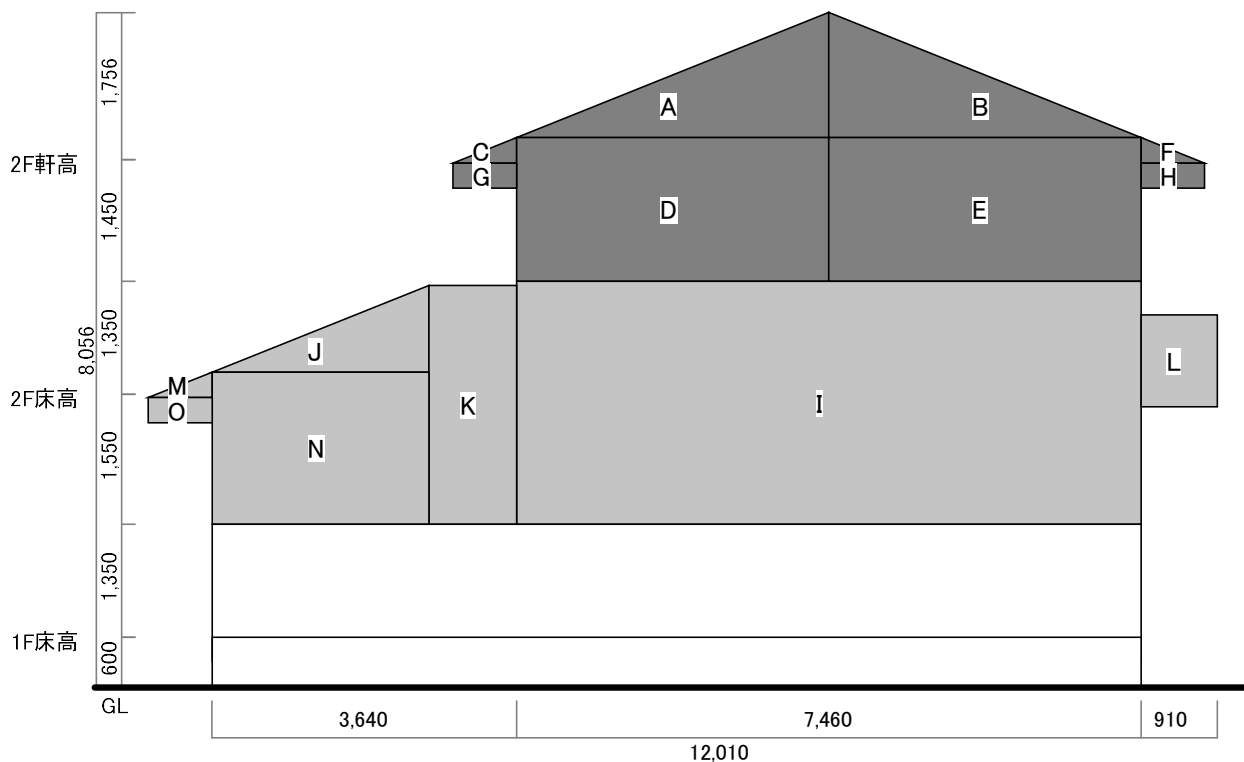
建物名: 住木邸新築工事

■X方向見付面積(Y方向壁量計算用)



縮尺 1/90

■Y方向見付面積(X方向壁量計算用)



縮尺 1/90

凡例

1、2階見付面積加算範囲

1階見付面積加算範囲

壁厚さ: 90mm 屋根厚さ: 300mm

※表示されている建物形状は、壁芯より壁厚さ、屋根厚さ分外側に広げた形状です。

2025年基準

見付面積計算表(X方向)

Y方向の壁量計算用

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

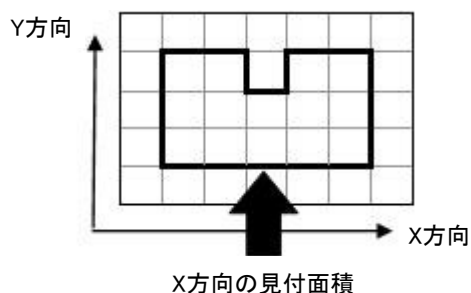
建物名: 住木邸新築工事

区画	計算式	面積 (㎡)
A	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
B	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
C	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
D	3.730×1.714	6.3932200
E	3.730×1.714	6.3932200
F	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
G	0.760×0.300	0.2280000
H	0.760×0.300	0.2280000
I	7.460×2.900	21.6340000
J	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
K	0.760×0.300	0.2280000

■計算結果

階	計算式	見付面積 (㎡)	記号
2階	A+B+C+D+E+F+G+H	19.04	口
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	41.02	二

■見付面積の方向



2025年基準

見付面積計算表(Y方向)

X方向の壁量計算用

日付: 2024年10月17日 15:29:04

建物コード: 000000

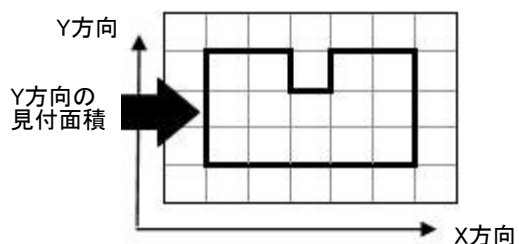
建物名: 住木邸新築工事

区画	計算式	面積 (㎡)
A	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
B	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
C	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
D	3.730×1.714	6.3932200
E	3.730×1.714	6.3932200
F	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
G	0.760×0.300	0.2280000
H	0.760×0.300	0.2280000
I	7.460×2.900	21.6340000
J	$2.593 \times 1.037 \div 2$	1.3444705
K	1.048×2.851	2.9878480
L	0.910×1.100	1.0010000
M	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
N	2.593×1.814	4.7037020
O	0.760×0.300	0.2280000

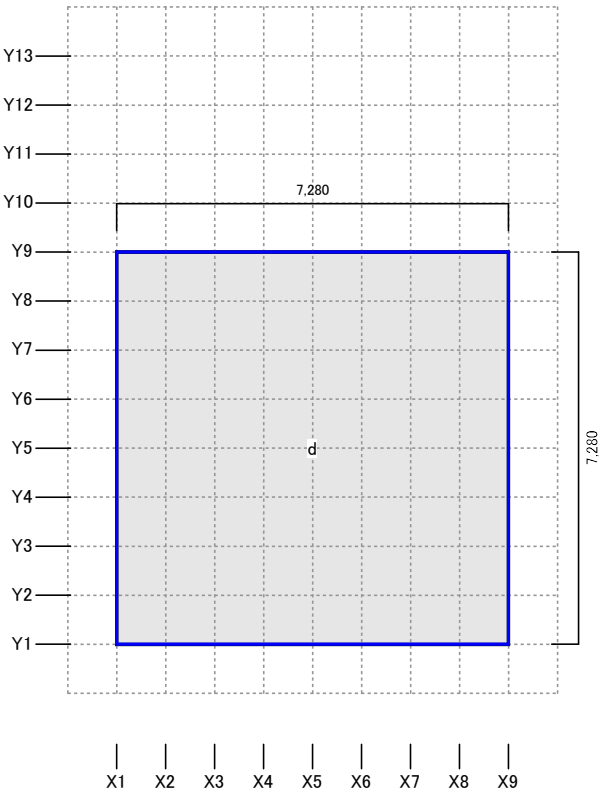
■計算結果

階	計算式	見付面積 (㎡)	記号
2階	A+B+C+D+E+F+G+H	19.04	イ
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O	51.05	ハ

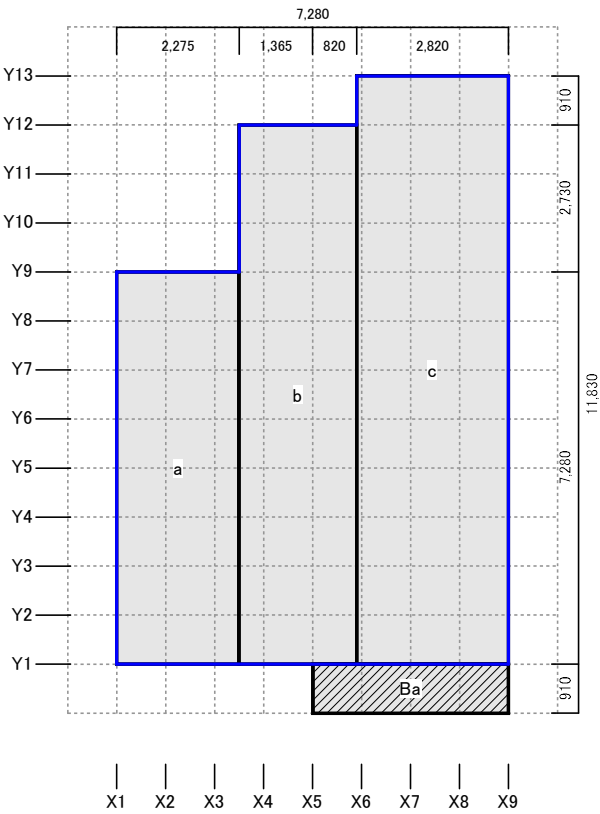
■見付面積の方向



2階



1階



縮尺 1/140

凡例

- 床面積区画 オーバーハング バルコニー
a b c 床面積区画名 Ba Bb Bc 床面積区画名(バルコニー)

■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	7.280	2.275	16.5620000	
b	10.010	2.185	21.8718500	
c	10.920	2.820	30.7944000	
Ba	0.910	3.640	3.3124000	□

[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
d	7.280	7.280	52.9984000	

■壁量計算用床面積

階	部位	計算式	壁量計算用床面積 (㎡)
2	床	d	53.00
	小屋裏収納等		0.00
	合計	(2階床)+(2階小屋裏収納等)×1.4÷2.1	53.00
1	床(オーバーハング含む)	a+b+c	69.23
	跳ね出しバルコニー	Ba	3.32
	小屋裏収納等		0.00
	合計	(1階床)+(跳ね出しバルコニー)×0.4+(1階小屋裏収納等)×1.4÷2.1	70.56

■記号の説明

「備考」:

- → 跳ね出しバルコニー範囲(跳ね出し部分面積×0.4)
- ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1)
- ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1×2)
- ▲ → 三角形区画

2025年基準

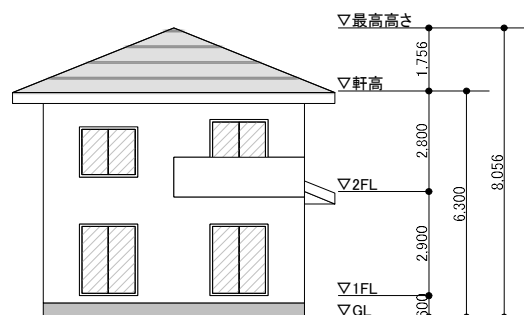
立面図

日付: 2024年10月17日 15:29:04

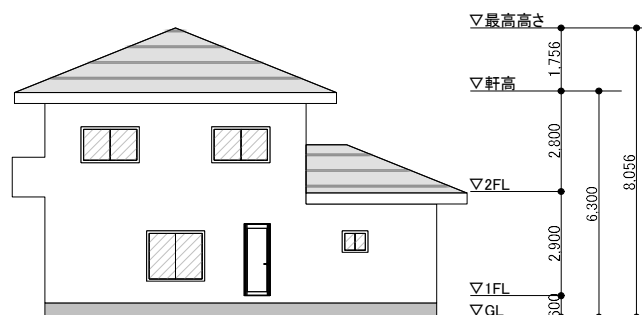
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

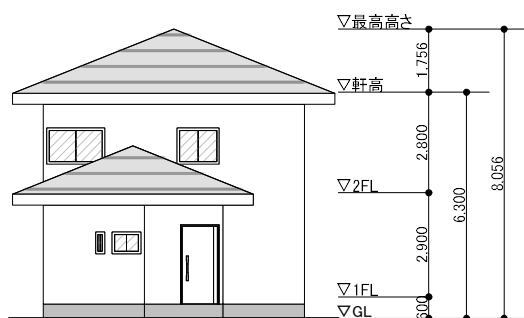
南立面図



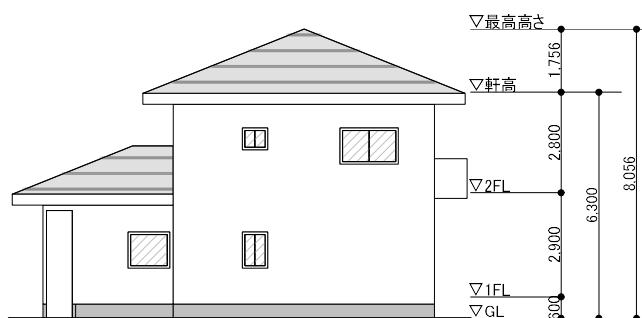
東立面図



北立面図



西立面図



縮尺: 1/210

【住宅性能表示】 偏心率

建物名 住木邸新築工事

偏心率計算表

偏心率明細表

偏心率平面図

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、偏心率を用いて軸組を釣合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。
- ・準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

要素名	階	方向	計算式	計算値	備考
床面積 (㎡)	2	-	2階床面積(バルコニーは含まず、吹抜を含む)	53.00	
	1	-	1階床面積(オーバーハングは含まず、ポーチを含む)	69.23	
重心	2	X座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	3.64	
		Y座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	4.55	
	1	X座標	$\{22 \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + 23 \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} \div (22 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 23 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	3.81	
		Y座標	$\{22 \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + 23 \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} \div (22 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 23 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	5.24	
有効耐力壁量 (m)	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長})$	20.93	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長})$	23.66	イ
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長})$	40.95	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長})$	40.04	イ
耐震要素	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	95.23	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	79.50	口
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	231.04	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	159.00	口
剛心座標	2	X座標	耐震要素[2階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階Y方向]	3.36	
		Y座標	耐震要素[2階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階X方向]	4.55	
	1	X座標	耐震要素[1階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階Y方向]	3.97	
		Y座標	耐震要素[1階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階X方向]	5.64	
偏心距離 (m)	2	X方向	絶対値(剛心[2階X座標] - 重心[2階X座標])	0.28	
		Y方向	絶対値(剛心[2階Y座標] - 重心[2階Y座標])	0.00	
	1	X方向	絶対値(剛心[1階X座標] - 重心[1階X座標])	0.16	
		Y方向	絶対値(剛心[1階Y座標] - 重心[1階Y座標])	0.40	
ねじり剛性	2	X方向	2階X方向各壁のねじり剛性の合計	183.87	ハ
		Y方向	2階Y方向各壁のねじり剛性の合計	215.17	ハ
		合計	ねじり剛性[2階X方向] + ねじり剛性[2階Y方向]	399.04	
	1	X方向	1階X方向各壁のねじり剛性の合計	468.12	ハ
		Y方向	1階Y方向各壁のねじり剛性の合計	429.67	ハ
		合計	ねじり剛性[1階X方向] + ねじり剛性[1階Y方向]	897.79	
弾力半径	2	X方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階X方向}])}$	4.37	
		Y方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階Y方向}])}$	4.11	
	1	X方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階X方向}])}$	4.68	
		Y方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階Y方向}])}$	4.74	
偏心率	2	X方向	偏心距離[2階Y方向] $\div$ 弾力半径[2階X方向]	0.00	
		Y方向	偏心距離[2階X方向] $\div$ 弾力半径[2階Y方向]	0.07	
	1	X方向	偏心距離[1階Y方向] $\div$ 弾力半径[1階X方向]	0.09	
		Y方向	偏心距離[1階X方向] $\div$ 弾力半径[1階Y方向]	0.04	

※ 備考に記号のあるものは、「偏心率明細表」を参照してください。

※ 重心(1階)は、1階および2階の形状を考慮して算出しています。

※ 1階重心(X,Y座標)における係数は屋根や外壁等の仕様(荷重)を元に算出された値です。

■偏心率の判定

各階・各方向の偏心率がすべて0.30以下になる場合 → 適合

各階・各方向の偏心率がひとつでも0.30を超える場合 → 不適合

偏心率判定

適合

######

偏心率明細表
(1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:48

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■ 1階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	4.00	0.910	3.64	0.00	3.97	57.40
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X5	3.640	4.00	0.910	3.64	13.25	3.97	0.40
X5	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	3.97	0.20
X5	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	3.97	0.20
X9	7.280	4.00	1.820	7.28	53.00	3.97	79.72
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.97	19.93
X9	7.280	4.00	0.910	3.64	26.50	3.97	39.86
X9	7.280	4.00	0.910	3.64	26.50	3.97	39.86
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.97	19.93
				40.04	159.00		429.67
				イ	ロ		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

※準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

2025年基準

偏心率明細表
(2階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:48

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■2階X方向

通り	Y座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心Y座標	ねじり剛性
	A	B	C	$D=B \times C$	$A \times D$	$E=(口) \div (イ)$	$D \times (A-E)^2$
Y1	0.910	2.00	0.910	1.82	1.66	4.55	24.11
Y1	0.910	2.00	0.910	1.82	1.66	4.55	24.11
Y1	0.910	2.00	0.910	1.82	1.66	4.55	24.11
Y1	0.910	2.00	0.910	1.82	1.66	4.55	24.11
Y5	4.550	2.00	0.910	1.82	8.28	4.55	0.00
Y5	4.550	2.00	0.910	1.82	8.28	4.55	0.00
Y6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	4.55	1.51
Y6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	4.55	1.51
Y9	8.190	2.00	0.910	1.82	14.91	4.55	24.11
Y9	8.190	2.00	1.365	2.73	22.36	4.55	36.17
Y9	8.190	2.00	0.910	1.82	14.91	4.55	24.11
				20.93	95.23		183.87
				イ	ロ		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

※準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

2025年基準

偏心率明細表
(2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:29:48

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

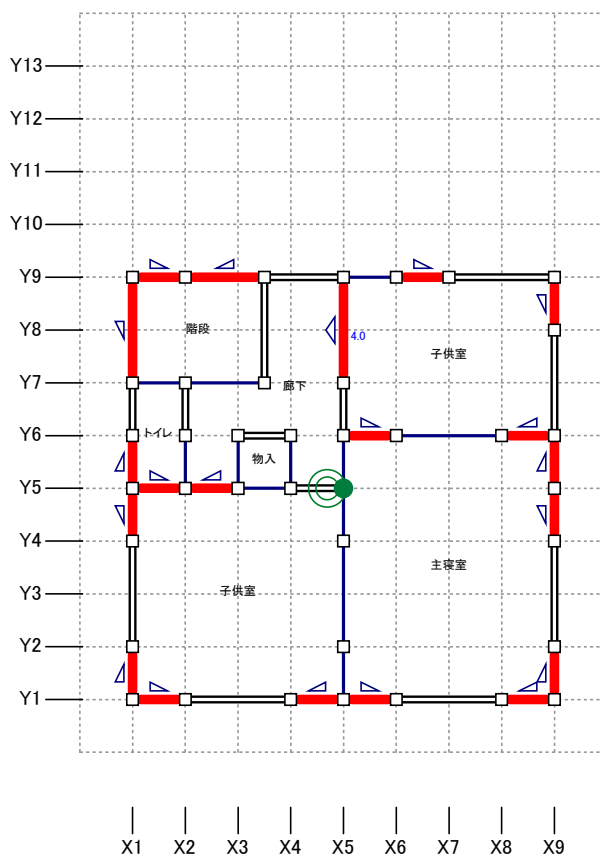
■2階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	$D=B \times C$	$A \times D$	$E=(口) \div (イ)$	$D \times (A-E)^2$
X1	0.000	2.00	1.820	3.64	0.00	3.36	41.09
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.36	20.55
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.36	20.55
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.36	20.55
X5	3.640	4.00	1.820	7.28	26.50	3.36	0.57
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
				23.66	79.50		215.17
				イ	口		ハ

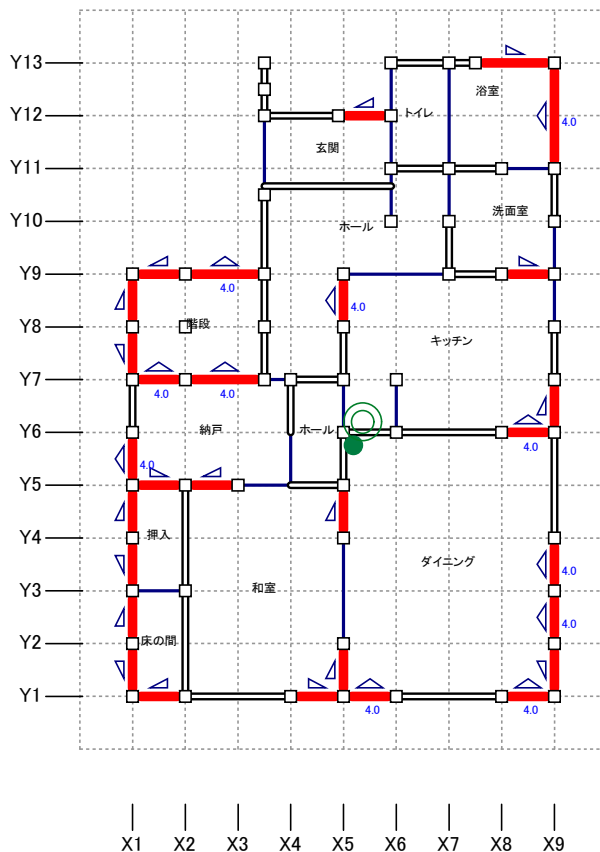
※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

※準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

2階



1階



縮尺 1/130

凡例

一般壁	開口部	柱頭	筋かいダブル	筋かいシングル	柱
面材耐力壁	筋かいダブル	柱頭	筋かいシングル	壁倍率	
小屋裏収納等	重心	剛心	壁倍率	(表記の無い壁の壁倍率は 2.0)	

【住宅性能表示】四分割法

建物名 住木邸新築工事

四分割法判定表

四分割法存在壁量明細表

四分割法平面図

四分割法床面積根拠図

四分割法床面積計算表

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、壁量充足率および壁率比を用いて軸組を釣り合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。
- ・準耐力壁等は四分割法の計算においては考慮されません。

■ 建物情報

屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)
外壁の仕様	サイディング
建物の階数	2階建て

■ 壁量係数

2階	28
1階	39
下屋	22

※算定式により求めた必要壁量係数を表示

■ 建物長さ1/4長さ

階	方向	全長(m)	1/4長さ(m)
2	X	7.280	1.820
	Y	7.280	1.820
1	X	7.280	1.820
	Y	10.920	2.730

■ 使用壁材一覧

材種名	壁倍率	対象告示または大臣認定番号
筋かい(45×90)(たすき掛け)	2.0(4.0)	

・設計者が任意に追加した材種の行は網掛け()で表示されます。

■ 判定

階	方向	位置	有効面積 (㎡)	壁量係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	充足率 判定	壁率比	壁率比 判定	判定
			①	②	③=①×②	④	⑤=④÷③	⑤>1.00	⑥=⑤小÷⑤大	⑥≥0.5	AorB=○
2	X	上	13.25	28	371.00	637.00	1.71	○	-	-	○
		下	13.25	28	371.00	728.00	1.96	○			
	Y	左	13.25	28	371.00	910.00	2.45	○	-	-	○
		右	13.25	28	371.00	728.00	1.96	○			
1	X	上	11.68	* 22	256.96	455.00	1.77	○	-	-	○
		下	21.20	39	826.80	1,092.00	1.32	○			
	Y	左	13.25	39	516.75	1,456.00	2.81	○	-	-	○
		右	20.54	39	801.06	1,820.00	2.27	○			

・①有効面積は建物の幅、奥行き長さを1/4分割した部分の面積です。
跳ね出しバルコニーは該当面積の40%を1階の有効面積に加算します。
側端部分が複数に分かれている場合は△マークで表します。偏心率により壁の配置バランスを検討してください。

・②壁量係数欄の*は、「平屋建てまたは下屋」の係数を用いたことを表します。

・④存在壁量は、「四分割法存在壁量明細表」を参照ください。

・充足率判定が×の場合は、壁率比判定を行います。

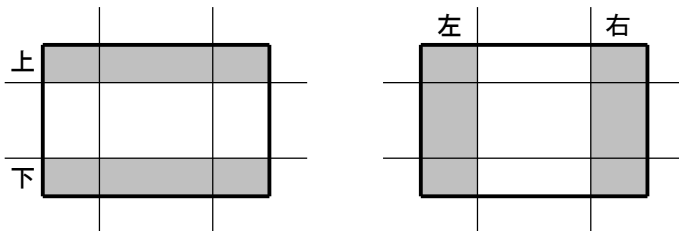
【四分割法判定】

判定がすべて“○”の場合 → 適合
判定がひとつでも“×”の場合 → 不適合

四分割法判定

適合

【四分割範囲】



2025年基準

四分割法存在壁量明細表 (1階)

日付: 2024年10月17日 15:29:48

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■1階X方向上の存在壁量(cm)

上	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y13	273.00												273.00
	Y12	182.00												182.00
上 壁量合計(cm)														455.00

■1階X方向下の存在壁量(cm)

下	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y1	182.00	182.00	364.00	364.00									1,092.00
下 壁量合計(cm)														1,092.00

■1階Y方向左の存在壁量(cm)

左	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X1	182.00	182.00	364.00	182.00	182.00	182.00	182.00						1,456.00
左 壁量合計(cm)														1,456.00

■1階Y方向右の存在壁量(cm)

右	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X9	728.00	182.00	364.00	364.00	182.00								1,820.00
右 壁量合計(cm)														1,820.00

・建物長さをそれぞれの方向で1/4境界線で分割した上下左右の区画に含まれる壁量を集計します。

・各通りに存在する耐力壁(筋かい・面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、…と表示しています。

(存在壁量 = 耐力壁の壁倍率 × 長さ とします)

・準耐力壁等は四分割法の計算においては考慮されません。

2025年基準

四分割法存在壁量明細表 (2階)

日付: 2024年10月17日 15:29:48

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■2階X方向上の存在壁量(cm)

上	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y9	182.00	273.00	182.00										637.00
上 壁量合計(cm)											637.00			

■2階X方向下の存在壁量(cm)

下	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y1	182.00	182.00	182.00	182.00									728.00
下 壁量合計(cm)											728.00			

■2階Y方向左の存在壁量(cm)

左	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X1	364.00	182.00	182.00	182.00									910.00
左 壁量合計(cm)											910.00			

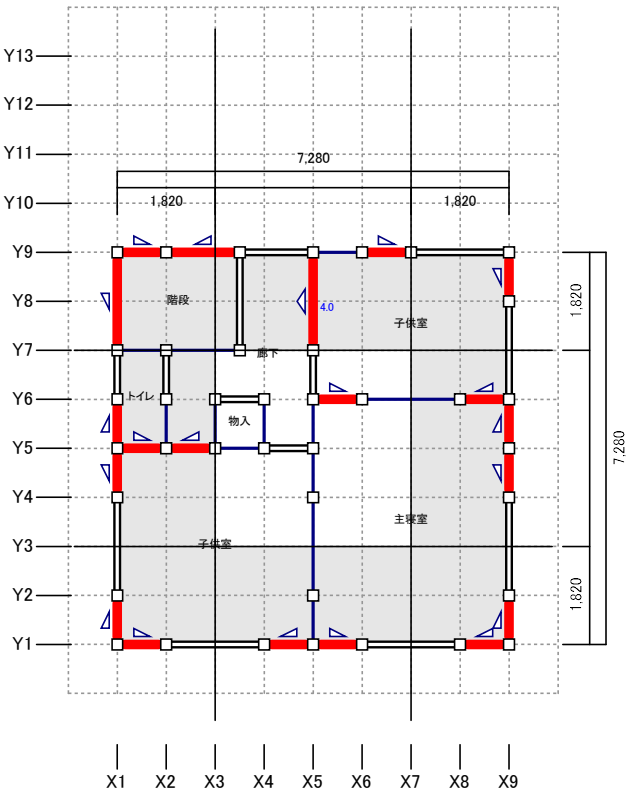
■2階Y方向右の存在壁量(cm)

右	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X9	182.00	182.00	182.00	182.00									728.00
右 壁量合計(cm)													728.00	

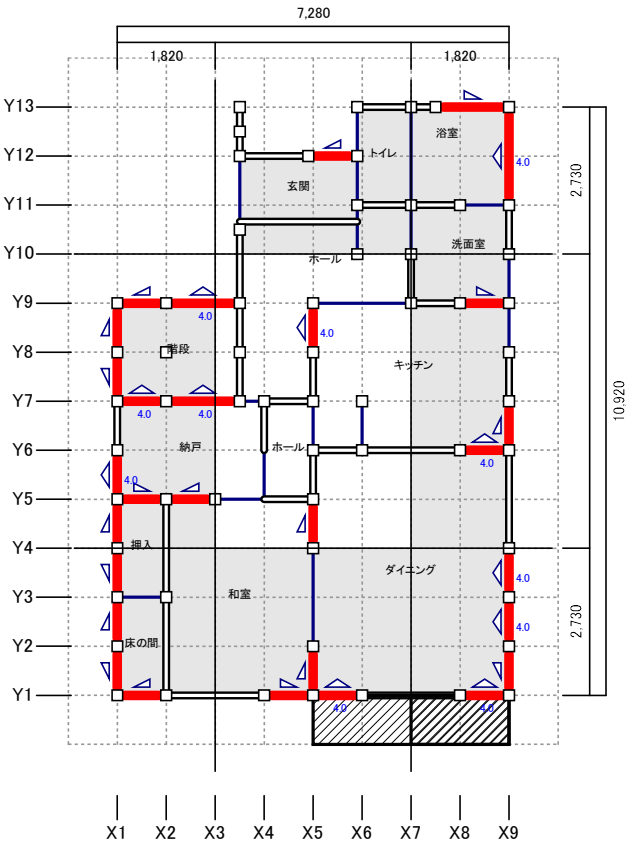
- ・建物長さをそれぞれの方向で1/4境界線で分割した上下左右の区画に含まれる壁量を集計します。
- ・各通りに存在する耐力壁(筋かい・面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、…と表示しています。
(存在壁量 = 耐力壁の壁倍率 × 長さ とします)
- ・準耐力壁等は四分割法の計算においては考慮されません。

四分割法平面図

2階



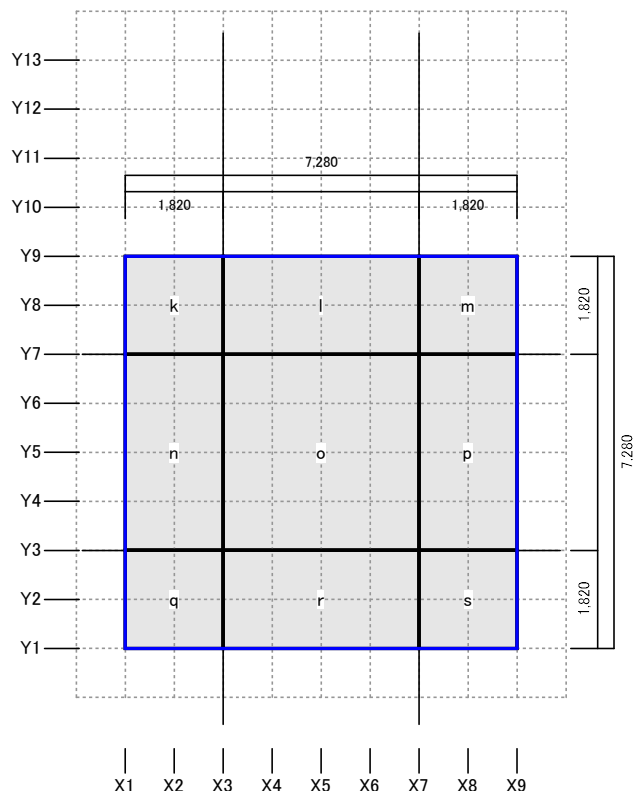
1階



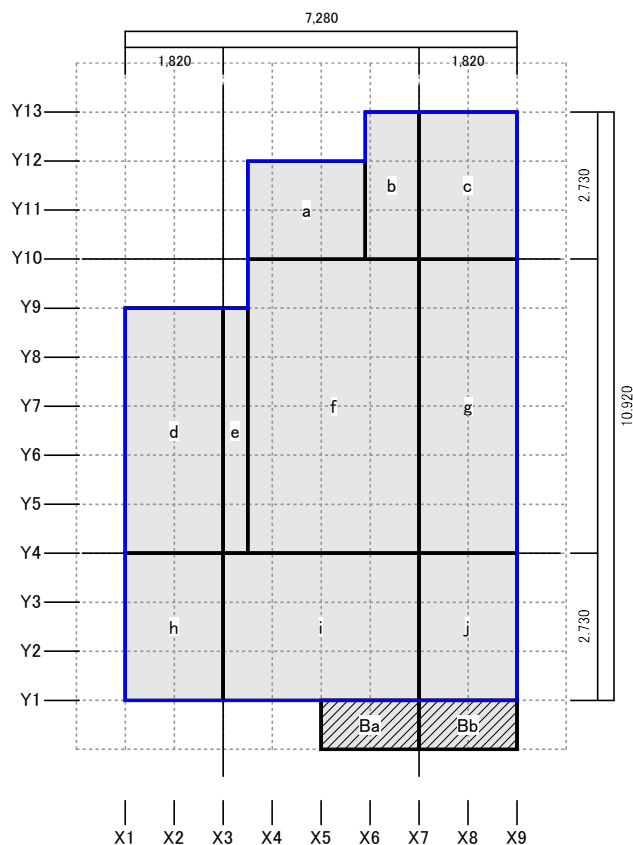
縮尺 1/140

- 凡例
- 一般壁 (Blue line)
 - 開口部 (Red line with triangle)
 - 筋かいダブル (Red line with double triangle)
 - 筋かいシングル (Red line with single triangle)
 - 柱頭 (Red line with circle)
 - 柱脚 (Red line with square)
 - 柱 (Red line with square)
 - 面材耐力壁 (Red line)
 - 壁倍率 (Red line with number 2.0)
 - 1/4範囲 (Red line with number 1/4)
 - バルコニー (Red line with diagonal lines)
 - オーバーハング (Red line with diagonal lines)
 - 小屋裏収納等 (Red line with diagonal lines)

2階



1階



縮尺 1/140

凡例

床面積区画 オーバーハング バルコニー

a b c 床面積区画名 Ba Bb Bc 床面積区画名(バルコニー)

■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	1.820	2.185	3.9767000	
b	2.730	1.000	2.7300000	
c	2.730	1.820	4.9686000	
d	4.550	1.820	8.2810000	
e	4.550	0.455	2.0702500	
f	5.460	3.185	17.3901000	
g	5.460	1.820	9.9372000	
h	2.730	1.820	4.9686000	
i	2.730	3.640	9.9372000	
j	2.730	1.820	4.9686000	
Ba	0.910	1.820	1.6562000	□
Bb	0.910	1.820	1.6562000	□

[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
k	1.820	1.820	3.3124000	
l	1.820	3.640	6.6248000	
m	1.820	1.820	3.3124000	
n	3.640	1.820	6.6248000	
o	3.640	3.640	13.2496000	
p	3.640	1.820	6.6248000	
q	1.820	1.820	3.3124000	
r	1.820	3.640	6.6248000	
s	1.820	1.820	3.3124000	

■四分割対象面積

階	方向	位置	計算式	面積 (㎡)
2	X	上	$(k+l+m)$	13.25
		下	$(q+r+s)$	13.25
	Y	左	$(k+n+q)$	13.25
		右	$(m+p+s)$	13.25
1	X	上	$(a+b+c)$	11.68
		下	$(h+i+j)+(Ba+Bb) \times 0.4$	21.20
	Y	左	$(d+h)$	13.25
		右	$(c+g+j)+(Bb) \times 0.4$	20.54

■記号の説明

「備考」:

- → 跳ね出しバルコニー範囲(跳ね出し部分面積 $\times 0.4$)
- ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積 $\times 1.4 \div 2.1$)
- ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積 $\times 1.4 \div 2.1 \times 2$)
- ▲ → 三角形区画

【住宅性能表示】床倍率

建物名 住木邸新築工事

床倍率判定表

存在壁量一覧表

床倍率区画一覧表

存在床倍率一覧表

火打構面床倍率一覧表

平行小区画一覧表

床倍率平面図

■注意事項

・平成13年国土交通省告示第1347号第5による、床倍率の検討を行います。

床倍率判定表
(準耐力壁等を考慮)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

【床倍率判定表】

階・方向	耐震 等級2		耐震 等級3		耐風 等級2	
	充足率の最低値	判定 1.00以上	充足率の最低値	判定 1.00以上	充足率の最低値	判定 1.00以上
1階X方向	1.95	○	1.62	○	1.12	○
1階Y方向	2.17	○	1.81	○	2.72	○
2階X方向	1.32	○	1.10	○	1.58	○
2階Y方向	1.37	○	1.14	○	1.62	○

※充足率 = 平均存在床倍率 / 必要床倍率

計算値・判定結果の詳細な内容は、帳票「床倍率区画一覧表」に記載されています。

【床倍率判定手順】

◆床倍率の判定条件

全ての階・方向・区画において（平均存在床倍率 $\geq$ 必要床倍率）を満たしている必要があります。
（＝ 床倍率充足率（平均存在床倍率／必要床倍率）が 1.00 以上を満たしている）

◆地震に関する必要床倍率

$$\text{地震に関する必要床倍率} = \frac{\text{壁線間の距離} \times \alpha \times \text{性能表示で定める地震に関する単位面積あたりの必要壁量}}{200}$$

◆風に関する必要床倍率

$$\text{風に関する必要床倍率} = \frac{\text{壁線間の距離}}{\text{区画の壁線方向の最短の長さ}} \times \alpha \times \text{風圧力の係数}$$

◆平均存在床倍率

$$\text{平均存在床倍率} = \frac{(\text{存在床倍率} \times \text{その床倍率の床の壁線方向の長さ}) \text{の合計}}{\text{区画の壁線方向の最短の長さ}}$$

計算に使用する係数の一覧

 α : 耐力壁線条件から算出される係数

対象とする床	接する耐力壁線の条件	上階の耐力壁線の条件	α
2階	接する耐力壁線が一つ以上○		2.0
	接する耐力壁線が両方◎		1.0
1階	接する耐力壁線が一つ以上○		2.0
	接する耐力壁線が両方◎	区画内に上階の耐力壁線がある	1.0
		区画内に上階の耐力壁線がない	0.5

耐力壁線条件◎: 壁量の合計値が、壁長 $\times$ 0.6および400cmのどちらよりも大きい壁線

耐力壁線条件○: ◎の条件を満たさない最外周壁線

性能表示で定める地震に関する単位面積あたりの必要壁量

等級	階	必要壁量係数(m/m ²)
等級2	1階	0.49
	2階	0.35

等級	階	必要壁量係数(m/m ²)
等級3	1階	0.59
	2階	0.42

風圧力の係数

地域の基準風速(Vo)
36

風圧力の係数	1階	2階
	2.13	1.07

【床倍率判定】

評価(耐力壁線間距離のチェック)	判定
耐力壁線間距離が8mを超えている部分はありません。 (靱性の無い壁を含む建物なので判定の基準値は8mです)	適合
評価(耐震等級)	判定
すべての階・方向・区画で等級3を満足しています	等級3
評価(耐風等級)	判定
すべての階・方向・区画で等級2を満足しています	等級2

2025年基準

存在壁量一覽表 (1階X方向)

日付:2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 最外周壁線を示す

2025年基準

床倍率区画一覽表 (1階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 充足率 = 平均存在床倍率 / 必要床倍率

2025年基準

存在壁量一覽表 (1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 最外周壁線を示す

2025年基準

床倍率区画一覽表 (1階Y方向)

日付:2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

							必要床倍率					
							地震(等級2)		地震(等級3)		風(等級2)	
区画 No	通り No	壁線 可否	α	壁線間距離 最短壁線長	決定平行 小区画	平均存在 床倍率	必要床倍率	判定	必要床倍率	判定	必要床倍率	判定
			上階壁線				充足率 ※		充足率		充足率	
1	X1	◎	0.5	364.0	1	0.98	0.45	○	0.54	○	0.36	○
	X5	◎		1092.0			2.17		1.81		2.72	
2	X5	◎	0.5	364.0	2	1.42	0.45	○	0.54	○	0.36	○
	X9	◎		1092.0			3.15		2.62		3.94	

※ 充足率 = 平均存在床倍率 / 必要床倍率

2025年基準

存在壁量一覽表 (2階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 最外周壁線を示す

2025年基準

床倍率区画一覽表 (2階X方向)

日付:2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 充足率 = 平均存在床倍率 / 必要床倍率

2025年基準

存在壁量一覽表 (2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 最外周壁線を示す

2025年基準

床倍率区画一覽表 (2階Y方向)

日付:2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

※ 充足率 = 平均存在床倍率 / 必要床倍率

2025年基準

存在床倍率一覧表

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

【2階床 存在床倍率】

階	部位	床仕様		床倍率	合計
		区分	水平構面の仕様		
2階	F2	床面	構造用合板又は構造用パネル12mm以上、根太@340以下、半欠き、N50@150以下	1.60	1.60

【バルコニー 存在床倍率】

階	部位	床仕様		床倍率	合計
		区分	水平構面の仕様		
2階	F1	床面	構造用合板又は構造用パネル12mm以上、根太@340以下、落し込み、N50@150以下	2.00	2.00

【屋根 存在床倍率】

階	部位	床仕様		床倍率	合計
		区分	水平構面の仕様		
1階	R1	屋根面	3寸勾配以下、構造用合板9mm以上、垂木@500以下、転ばし、N50@150以下	0.70	0.70
		床面	床倍率無し	0.00	
2階	R1	屋根面	3寸勾配以下、構造用合板9mm以上、垂木@500以下、転ばし、N50@150以下	0.70	0.70
		床面			

【編集床倍率】

	部位	床仕様		床倍率	合計
		区分	水平構面の仕様		
A	R1	屋根面	3寸勾配以下、構造用合板9mm以上又は構造用パネル1・2・3級、垂木@500以下転ばし、N50@150以下	0.70	0.70
		床面			
B		屋根面			
		床面			
C		屋根面			
		床面			
D		屋根面			
		床面			
E		屋根面			
		床面			
F		屋根面			
		床面			

※ 火打ちCAD情報が有効のため、火打ちに関しては「火打構面床倍率一覧表」を参照してください。

2025年基準

火打構面床倍率一覽表

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

階	方向	構面位置	火打構面面積 (m ²)	火打本数 (本)	火打負担面積 (m ² /本)	最小梁せい (mm)	記号	床仕様	存在床倍率	考慮
1階	X	1-1-1	1.99	2	1.00	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	X	1-1-2	2.57	2	1.29	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	X	1-2-1	13.67	4	3.42	150	H8	火打金物HB,平均負担面積5.0以下、梁背150以上	0.18	考慮
1階	X	2-1-2	9.11	4	2.28	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	考慮
1階	X	3-1-1	6.63	4	1.66	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	考慮
1階	X	4-1-1	33.13	10	3.32	150	H8	火打金物HB,平均負担面積5.0以下、梁背150以上	0.18	考慮
1階	Y	1-1-2	12.43	4	3.11	150	H5	火打金物HB,平均負担面積3.3以下、梁背150以上	0.36	考慮
1階	Y	1-2-1	1.25	1	1.25	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	Y	1-2-2	3.73	1	3.73	150	H8	火打金物HB,平均負担面積5.0以下、梁背150以上	0.18	
1階	Y	1-2-3	9.94	6	1.66	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	Y	2-1-1	0.75	1	0.75	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	Y	2-1-2	2.24	1	2.24	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	Y	2-1-3	5.97	4	1.50	150	H2	火打金物HB,平均負担面積2.5以下、梁背150以上	0.60	
1階	Y	2-2-1	10.27	4	2.57	150	H5	火打金物HB,平均負担面積3.3以下、梁背150以上	0.36	考慮
1階	Y	2-2-2	20.53	4	5.14	150	-	考慮不可	0.00	
2階	X	1-1-1	19.88	6	3.32	150	H8	火打金物HB,平均負担面積5.0以下、梁背150以上	0.18	考慮
2階	X	2-1-1	33.13	12	2.77	150	H5	火打金物HB,平均負担面積3.3以下、梁背150以上	0.36	考慮
2階	Y	1-1-1	26.50	8	3.32	150	H8	火打金物HB,平均負担面積5.0以下、梁背150以上	0.18	考慮
2階	Y	2-1-1	26.50	10	2.65	150	H5	火打金物HB,平均負担面積3.3以下、梁背150以上	0.36	考慮

2025年基準

平行小区画一覽表

日付: 2024年10月17日 15:30:11

建物コード: 000000

建物名:住木邸新築工事

[illegible]

2025年基準

床倍率平面図

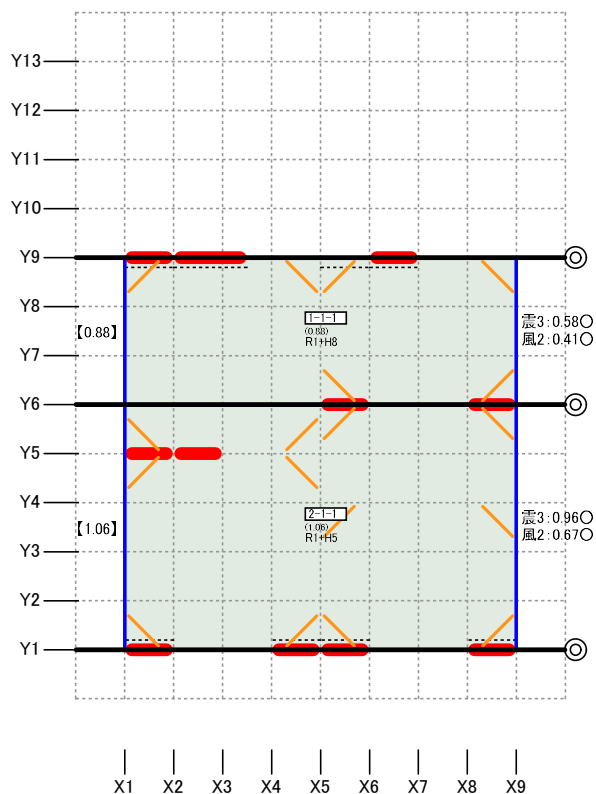
(X方向)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

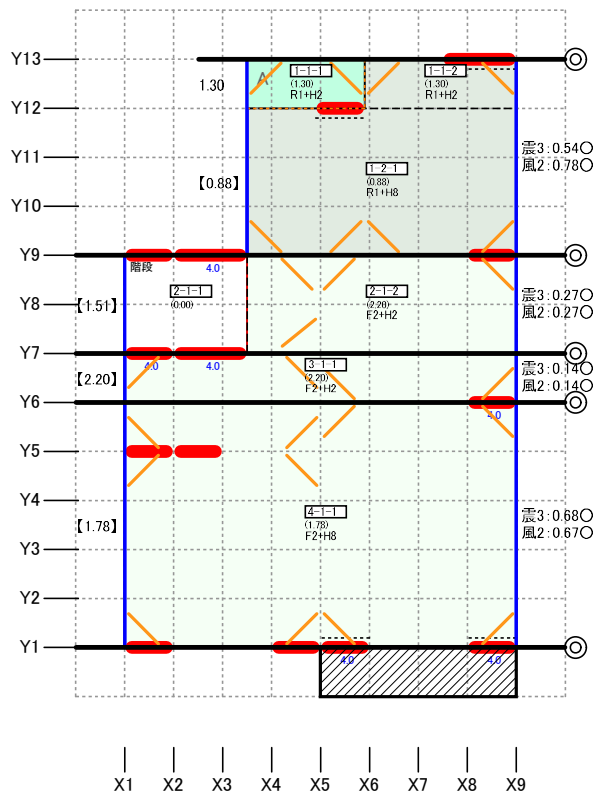
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

2階



1階



縮尺 1/140

※表記の無い壁の壁倍率は 2.0

凡例

- 耐力壁線 ○ —○— 耐力壁線 ○ --- 小區畵境界 耐力壁 準耐力壁 火打
- [N-n-n] (m) 區畵No-平行小區畵-直交小區畵 (存在床倍率) 2階部屋床 屋根 小屋裏収納等 考慮除外區畵 吹抜け・階段室 1.88 平行小區畵平均存在床倍率 震3: 0.51 ○ 床區畵必要床倍率・判定結果 風2: 0.65 × (耐震等級3および耐風等級2)
- 特殊床區畵(床倍率有) 特殊床區畵(床倍率0) 床倍率0區畵(斜め外周線含)

2025年基準

床倍率平面図

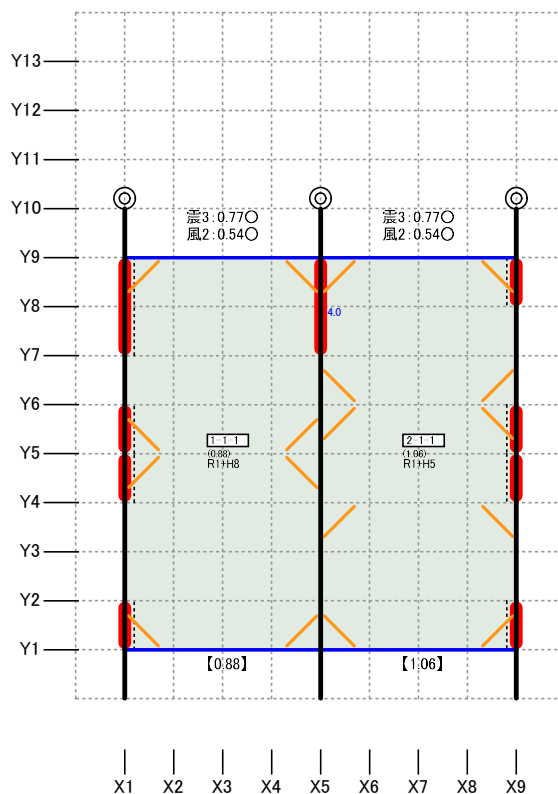
(Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:30:11

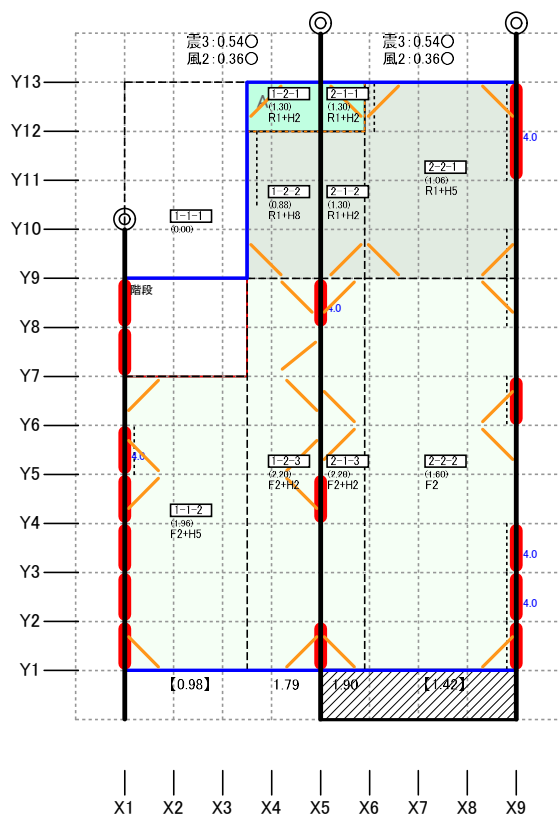
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

2階



1階



【住宅性能表示】接合部

建物名 住木邸新築工事

柱頭柱脚金物算定表（1階柱）

柱頭柱脚金物算定表（2階柱）

使用金物一覧

柱頭柱脚金物算定平面図

柱頭柱脚金物算定立面図

接合部チェック（胴差と通し柱、外周横架材）

接合部チェック平面図（胴差と通し柱、外周横架材）

■注意事項

- 平成12年建設省告示第1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」第二号のただし書きにより接合金物を求める方法に準拠した計算を行います。
- N値計算において、1階の柱のN値について、その真上の2階柱の金物のN値が大きい場合、1階柱の金物は2階の柱の金物同等以上としています。
- 倍率の異なる耐力壁が直交して取り付く場合は、平面におけるX方向とY方向を区分してそれぞれ必要となる金物を選択し、耐力の大きい方の金物を採用します。
- 2階柱の下に柱が無い場合については、以下のいずれかの方法を選択して計算を行うことができます。
 - 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
 - 1階の両側の柱が2階柱の引抜き力を負担するものとして計算する。
- 同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物（金物が(に)以上の場合）について、以下のいずれかの方法を選択して計算することができます。
 - 同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる
 - 同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえない
- 接合部金物は設計者が任意に登録することが可能です。
- 利用者におかれましては、公的な認定や性能試験を受けているものであること、また性能試験時の構造体の条件等が合致する場合においてのみお使い下さい。

2025年基準

柱頭柱脚金物算定表
(1階柱)

日付: 2024年10月17日 15:30:32

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 方 向	1階						2階						L	N	接合金物	
	柱状況	パターン	補正 値	A1	B1	柱	柱状況	パターン	補正 値	A2	B2	柱頭			柱脚	
4	X	下屋／他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5							0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
5	X	下屋／出隅	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.8							0.4	0.80	(と)	(と)
	Y		4.0 × 0.0	0.0	4.0									2.80		
8	X	下屋／他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5							0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
9	X	下屋／他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5							0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
13	Y	下屋／他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							0.6	1.40	(に)	(に)
15	X	下屋／他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(下)	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
18	X	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	1	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	2.20	無(通し柱)	(と)
	Y	出隅	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.8	1	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8		2.20		
19	X	他柱	2.0 / × 4.0	0.5	2.5	0.5	2	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	-0.35	(い)	(い)
20	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	3	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.65	(へ)	(へ)
21	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(右)	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	(と)	(と)
	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	4	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5		2.40		
22	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(左)	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
23	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5							1.6	-0.35	(い)	(い)
24	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	無(通し柱)	#(ほ)
	Y	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	7	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8		0.40		
25	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5							1.6	-1.10	(い)	(い)
28	Y	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
29	Y	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	8	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.85	#(ろ)	#(ろ)
30	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	9	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5		-0.10		
31	X	他柱	4.0 × × 4.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
32	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
34	Y	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	12	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	1.6	0.40	#(に)	#(に)
36	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
37	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	13	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
38	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	17	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
39	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	18	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.85	#(ろ)	#(ろ)
40	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	19	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
41	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	20	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.65	(へ)	(へ)
	Y	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	20	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5		0.40		
42	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	21	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	0.90	(は)	(は)
	Y	他柱	2.0 \ × 4.0	0.0	2.0	0.5	21	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5		-0.10		
43	X	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	22	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	-1.60	(い)	(い)
44	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	23	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	0.90	(は)	(は)
45	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
46	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	27	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
47	Y	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5							1.6	-0.35	(い)	(い)
48	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	29	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
49	Y	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
51	Y	他柱	4.0 × × 4.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
52	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	30	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
53	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
54	Y	他柱	2.0 / × 4.0	0.5	2.5	0.5	32	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
55	X	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	33	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	2.20	無(通し柱)	(と)
	Y	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	33	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8		2.20		

■記号の説明

- ・「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付けの場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。(最大斜め2方向まで)
- ・「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。 X: 筋かいダブル /: 筋かいシングル □: 面材耐力壁

- ・「2階 柱状況」… () 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- ・「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
(2階柱の引抜き力を土台・基礎に伝達するため)
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
*は設計者により編集された金物を表しています。(自動設定された金物以上の金物を選択)

■計算条件

- ・2階柱の下に柱がない場合の計算方法 → 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる。 ※ただし、金物が(に)以上の場合
- ・壁倍率1.5倍超の準耐力壁を含む

2025年基準

柱頭柱脚金物算定表
(1階柱)

日付: 2024年10月17日 15:30:32

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱	方向	1階					2階						L	N	接合金物	
		柱状況	パターン	補正値	A1	B1	柱	柱状況	パターン	補正値	A2	B2			柱頭	柱脚
56	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	34	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
57	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	35	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
58	X	他柱	2.0 \ × 4.0	0.0	2.0	0.5	36	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	1.6	-0.10	(い)	(い)
	Y	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5								-0.35		
59	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	37	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
60	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	38	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
61	X	出隅	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.8	39	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	1.0	4.20	(り)	(り)
	Y	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	39	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8		2.20		

■記号の説明

- ・「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付け場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。(最大斜め2方向まで)
- ・「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。 X: 筋かいダブル / : 筋かいシングル □: 面材耐力壁

- ・「2階 柱状況」… () 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- ・「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
*は設計者により編集された金物を表しています。(自動設定された金物以上の金物を選択)

■計算条件

- ・2階柱の下に柱がない場合の計算方法 → 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる。 ※ただし、金物が(に)以上の場合
- ・壁倍率1.5倍超の準耐力壁を含む

2025年基準

柱頭柱脚金物算定表
(2階柱)

日付: 2024年10月17日 15:30:32

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱	方向	柱状況	パターン	補正 値	A1	B1	L	N	接合金物	
									柱頭	柱脚
1	X	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
	Y		2.0 / 0.0	0.5	2.5			1.60		
2	X	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.60	(い)	(い)
3	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	※(へ)
4	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	0.6	1.40	(に)	※(と)
5	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
6	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
7	Y	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
8	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
9	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
12	Y	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	0.6	1.40	(に)	(に)
13	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
17	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
18	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
19	X	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
20	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	※(へ)
	Y		2.0 \ 0.0	-0.5	1.5			0.15		
21	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
	Y		2.0 / \ 2.0	1.0	1.0			-0.10		
22	X	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.60	(い)	(い)
23	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
26	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	0.6	-0.10	(い)	(い)
27	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
29	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
30	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
32	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
33	X	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
	Y		0.0 \ 2.0	0.5	2.5			1.60		
34	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
35	X	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
36	X	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	0.6	-0.10	(い)	(い)
37	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
38	X	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
39	X	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	※(り)
	Y		0.0 \ 2.0	0.5	2.5			1.60		

■記号の説明

- ・「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付け場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。(最大斜め2方向まで)
△は、その方向の引抜力を負担する1階柱が存在しないことを表しています。
- ・「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。 X: 筋かいダブル /: 筋かいシングル □: 面材耐力壁
- ・「2階 柱状況」… () 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- ・「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
*は設計者により編集された金物を表しています。(自動設定された金物以上の金物を選択)

■計算条件

- ・2階柱の下に柱がない場合の計算方法 → 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる。 ※ただし、金物が(に)以上の場合
- ・壁倍率1.5倍超の準耐力壁を含む

■ 柱頭柱脚接合部金物

N値	告示表三	金物名	略称	注意事項(認定番号)	金物数量(箇所)		
					1階	2階	合計
0	(い)	短ほぞ差し及びかすがい打ち	カスガイ		56	26	82
~0.65	(ろ)	長ほぞ差し込み栓又はかど金物CP-L	CP-L		32	33	65
~1.0	(は)	山形プレートVP又はかど金物CP-T	VP		4	0	4
~1.4	(に)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘なし)	SB-F2		14	8	22
~1.6	(ほ)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘あり)	SB-F		1	4	5
~1.8	(へ)	10kN引き寄せ金物	HD-B10		4	2	6
~2.8	(と)	15kN引き寄せ金物	HD-B15		6	1	7
~3.7	(ち)	20kN引き寄せ金物	HD-B20		0	0	0
~4.7	(り)	25kN引き寄せ金物	HD-B25		2	1	3
~5.6	(ぬ)	15kN引き寄せ金物×2	HD-B15×2		0	0	0
5.6超	(一)	適合する金物が存在しない	N>5.6		0	0	0

・設計者が任意に追加、編集した金物の行は網掛け(☐)で表示されます。

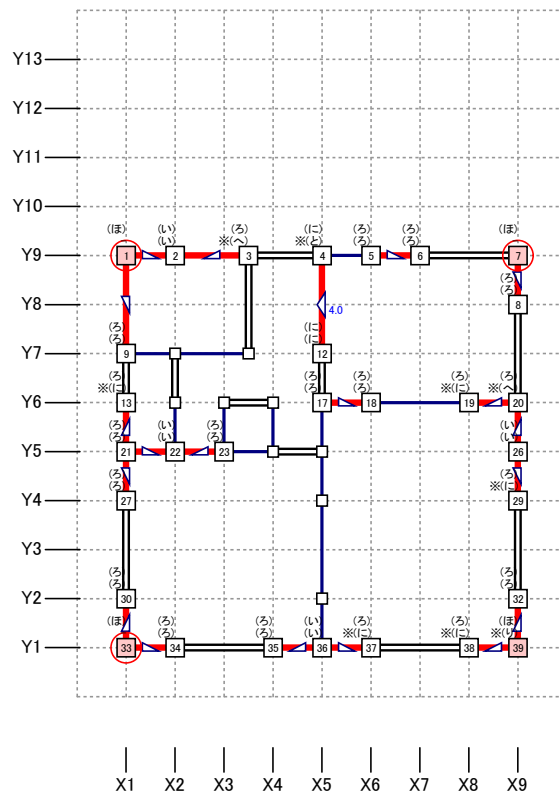
■ 筋かい接合部金物

筋かい種類	接合部記号	金物名	金物数量(個)
筋かい(45×90)	SS6	筋かいプレート(BP-2)	122

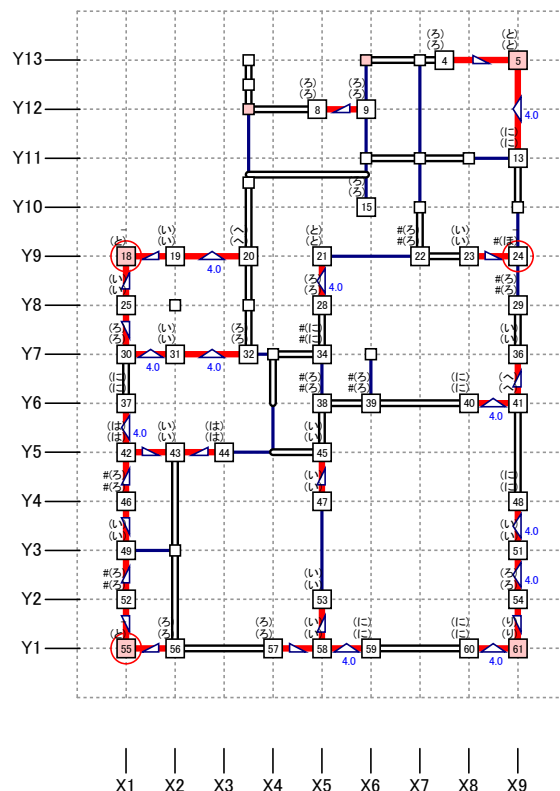
・筋かいがシングルの場合は金物数量は「2」、ダブルの場合は金物数量は「4」とカウントされます。

・設計者が任意に追加、編集した金物の行は網掛け(☐)で表示されます。

2階



1階



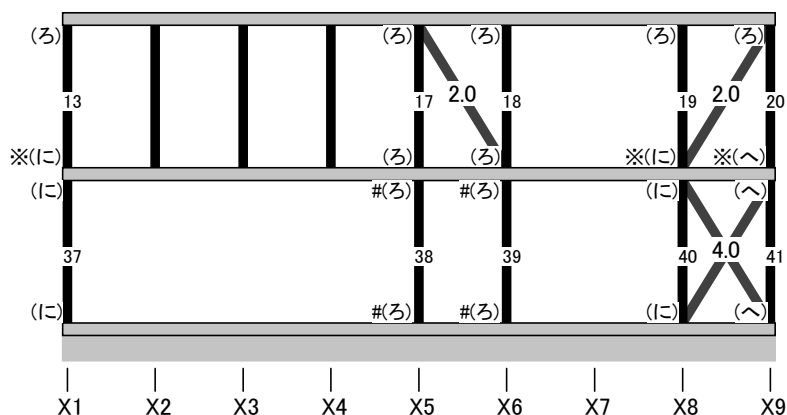
縮尺 1/140

*印の金物は設計者により編集された金物を示す。(自動設定された金物以上の金物を選択)
※印の金物は2階柱脚を1階柱頭に合わせたことを示す。(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
#印の金物は1階柱を2階柱に合わせたことを示す。(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)

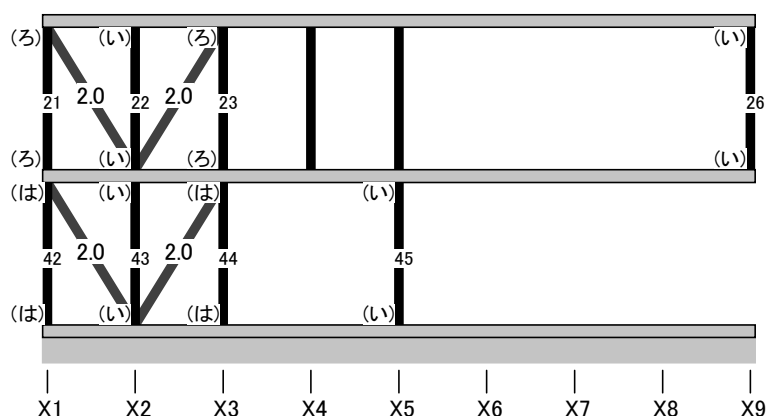
凡例	一般壁	開口部	検討柱	検討外柱	※検討外柱は (い) の金物を使用する。	出隅柱	通し柱	準耐力壁 (壁倍率1.5倍超)
	面材耐力壁	大臣認定耐力壁	筋かいダブル	柱頭	柱脚	筋かいシングル	壁倍率 2.0 (表記の無い壁の壁倍率は2.0)	
(い) カスガイ	(ろ) CP-L	(は) VP	(に) SB-F2	(ほ) SB-F	(へ) HD-B10	(と) HD-B15	(ち) HD-B20	(り) HD-B25
(一) N>5.6								(ぬ) HD-B15×2

建物名:住木邸新築工事

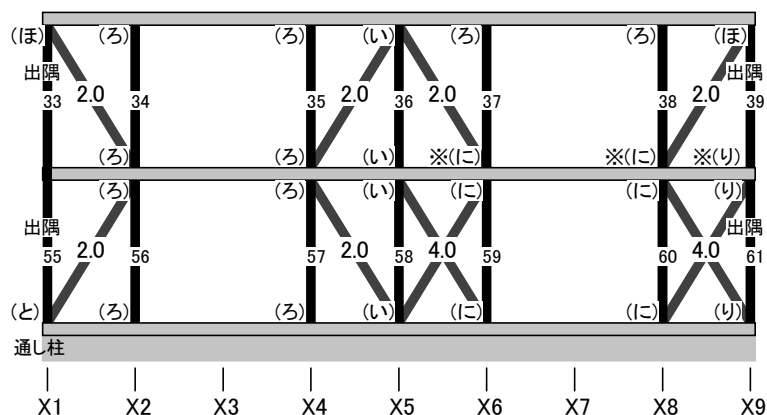
■Y6通り



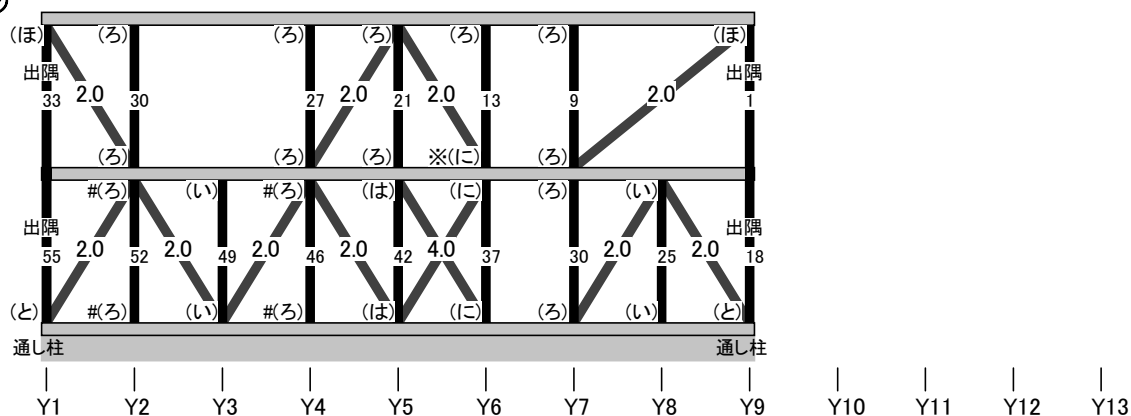
■Y5通り



■Y1通り



■X1通り



凡例 (い) カスガイ (ろ) CP-L (は) VP (に) SB-F2 (ほ) SB-F (へ) HD-B10 (と) HD-B15
(ち) HD-B20 (り) HD-B25 (ぬ) HD-B15×2 (一) N>5.6

*印の金物は設計者により編集された金物を示す。(自動設定された金物以上の金物を選択)

※印の金物は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭金物に合わせたことを示す。(1つの金物で上下階の柱を接合するため)

#印の金物は1階柱金物をよりN値の大きい2階柱金物に合わせたことを示す。(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)

建物名:住木邸新築工事

■ 胴差と通し柱の接合部チェック

1階 柱番号	2階 柱番号	胴差方向	接合部 記号	接合部仕様
18	1	右-下	T1	かたぎ大入れ短ほぞ差し+(羽子板ボルト又はかね折り金物)
24	7	上-下	T2	かたぎ大入れ短ほぞ差し+(羽子板ボルト又は短冊金物)
55	33	上-右	T1	かたぎ大入れ短ほぞ差し+(羽子板ボルト又はかね折り金物)

・設計者が任意に編集した金物の行は網掛け(□)で表示されます。

■ 外周横架材接合部チェック (準耐力壁等を考慮)

階	種別	番号	接合 方向	部位 パターン	区画 番号	平均 存在 床倍率	耐力壁 線間 距離	必要 接合部 倍率	接合部 記号	接合部仕様	接合部 倍率
1	継手	1	上下	③	X-4	1.78	4.55	1.50	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	継手	2	上下	③	X-4	1.78	4.55	1.50	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	継手	3	左右	④	Y-2	1.42	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	仕口	1	上下	①②	X-1	0.88	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	仕口	2	左右	④	Y-2	1.42	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	仕口	3	左右	④	Y-1	0.98	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	仕口	4	左右	④	Y-2	1.42	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
1	仕口	5	左右	④	Y-2	1.42	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	継手	1	上下	③	X-2	1.06	4.55	0.90	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	継手	2	上下	③	X-2	1.06	4.55	0.90	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	継手	3	左右	④	Y-1	0.88	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	継手	4	左右	④	Y-2	1.06	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	仕口	1	左右	④	Y-1	0.88	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	仕口	2	左右	④	Y-2	1.06	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	仕口	3	左右	④	Y-1	0.88	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90
2	仕口	4	左右	④	Y-2	1.06	3.64	0.70	J1	(腰掛け蟻又は大入れ蟻掛け)+(羽子板ボルト又は短冊金物)	1.90

・設計者が任意に編集した金物の行は網掛け(□)で表示されます。

■ 部位パターンの説明

部位パターンの記号が表している部位および必要接合部倍率の計算方法は以下の表の通りです。

記号	部位	必要接合部倍率
①	下屋の付け根の接合部	$\text{必要接合部倍率} = \text{耐力壁線間距離} \times \frac{\text{平均存在床倍率}}{\text{耐力壁線間距離}} \times 0.185$ (0.7以下の時は0.7とする)
②	建物の最外周の耐力壁線から1.5mを超える位置にある入り隅部の接合部	
③	耐力壁線間距離が4mを超える床・屋根面の中間の接合部	
④	その他の接合部	0.7

2025年基準

接合部チェック平面図

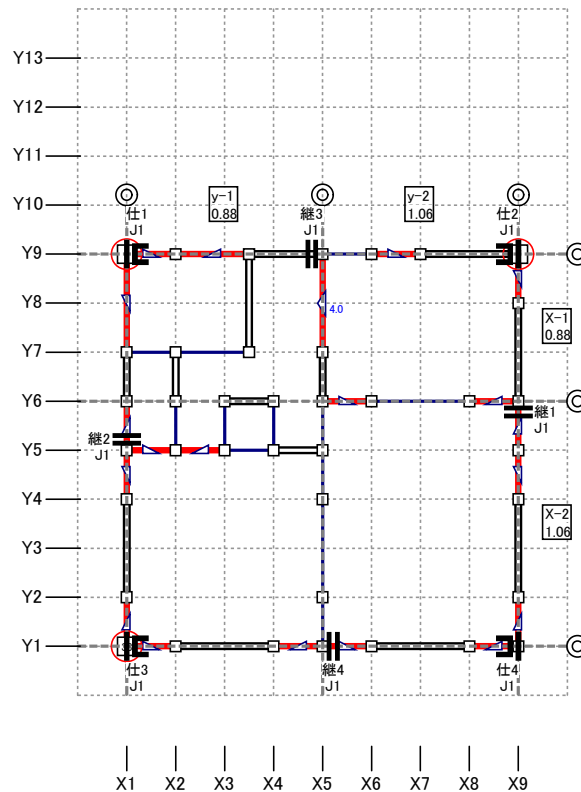
(胴差と通し柱、外周横架材)

日付: 2024年10月17日 15:30:32

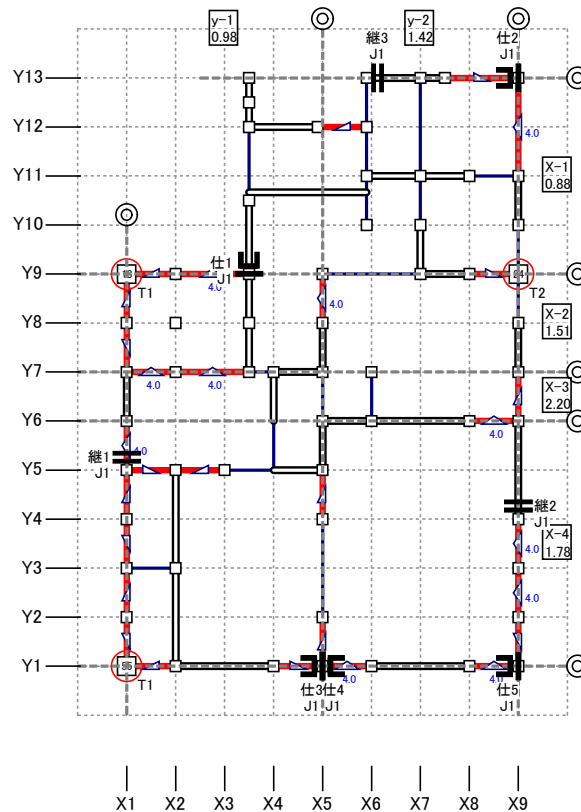
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

2階



1階



縮尺 1/140

凡例

一般壁	開口部	柱	通し柱	継手	仕口	壁倍率 (表記の無い壁の壁倍率は2.0)
面材耐力壁	筋かいダブル	柱頭	柱脚	筋かいシングル	T1, T2, T3 通し柱と胴差の接合部仕様	準耐力壁 (壁倍率1.5倍超)
耐力壁線	耐力壁線	X-1 上: 床区画番号 下: 平均存在床倍率	オーバーハング	J1, J2 外周横架材(継手・仕口)の接合部仕様		